

フォーラム

がんと生きる

～こころとからだ 私らしく～

2人に1人がかかるといわれる“がん”。

医学の進歩で治療の効果があがる一方で、抗がん剤などの副作用に悩まされ、暮らしか治療そのものに支障をきたす人も少なくありません。

今そこに、新たな医療の手立てがでてきました。治療の副作用を軽減する“支持療法”や、心や体の痛みに寄り添う“緩和ケア”の効果が期待されています。

たとえ、がんと診断されても自分らしく生きられる時代。

がんとともに生きる当事者や医療者らが最新の医療・ケアについて語り合います。

参加者募集中

日時：2018年 **1月27日** (土)

開場：午後0時30分 開演：午後1時 終演：午後3時30分 (予定)
※ 途中休憩あり

会場：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

住所：宮城県仙台市青葉区川内40

定員：600人 **入場無料** 事前の申し込みが必要です。申し込み方法は裏面をご覧ください。

がん相談コーナーもあります。お気軽にお立ち寄りください

- 交通**
- 地下鉄東西線 仙台駅から国際センター駅まで5分
国際センター駅下車 西1出口から徒歩約5分(扇坂階段経由)
 - 地下鉄東西線 川内駅下車の場合
南2出口から徒歩約7分(川内北キャンパス内経由)
- ※駐車場の数に限りがあるため、公共交通機関でお越しください。



題字/延 哲也
イラスト/マルシエル

主催 ● NHK 厚生文化事業団 NHKエンタープライズ 読売新聞社

後援 ● NHK 仙台放送局 厚生労働省 宮城県 仙台市 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 公益社団法人宮城県医師会 一般社団法人宮城県歯科医師会 (予定) 一般社団法人宮城県薬剤師会 公益社団法人宮城県看護協会 一般社団法人仙台市医師会 宮城県民生委員児童委員協議会 仙台市民生委員児童委員協議会 宮城県がん診療連携協議会

特別協賛 ● ツムラ 協賛 ● アテランス

出演者プロフィール

基調講演

きたじま まさき
北島 政樹

国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長
慶應義塾大学 名誉教授

慶應義塾大学医学部卒業。Harvard Medical School, Massachusetts General Hospitalに2年間留学。元慶應義塾大学病院病院長、同大医学部長。第100回日本外科学会会長、第42回万国外科学会会長、日本癌治療学会理事長、日本コンピュータ外科学会理事長、日本内視鏡外科学会理事長、国際消化器外科学会会長のほか、世界最高峰の医学雑誌「New England Journal of Medicine」の編集委員を務めるなど国内外で活躍。ハンガリー・センメルweis大学名誉医学博士、ポーランド・ヴロツワフ医科大学名誉医学博士。これからのがん医療は常に患者さんの視点でみるのが重要であり、低侵襲・個別化医療とチーム医療がキーワードになると考えている。

パネルディスカッション

海野 倫明 うんの みちあき

東北大学大学院医学系研究科 副研究科長、消化器外科学分野・教授

1986年東北大学医学部卒業。2005年8月より東北大学大学院医学系研究科・教授。日本胆道学会理事長、日本外科学会理事、日本肝胆膵外科学会理事、日本消化器病学会理事、日本腹部救急医学会理事、NPO法人NEXTSURG理事長、外科指導医、消化器外科指導医、肝胆膵高度技能指導医ほか。専門は肝臓・胆道・膵臓の外科、特に膵癌・胆道癌・肝癌の治療。先進医療と患者さんに優しい治療との調和を目指した治療を心がけている。

吉田 久美子 よした くみこ

がん患者会・サロンネットワークみやぎ代表

1972年東北労災看護専門学校卒業後、東北労災病院で38年間看護師として勤務。退職後は2年間、緩和ケアチームの専任看護師として、多くの患者と向き合い続けてきた。また52歳の時には自らも乳がんの診断を受けた。その経験から患者同士で語り合える居場所の必要性を痛感。2010年に仲間とともにがん患者会「四つ葉の会」を立ち上げた。現在は県内の患者会・サロンをつなぐ「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」として患者会支援に力を注ぐ。

八巻 直恵 やまき なおえ

宮城県保健福祉部健康推進課がん対策班 技術補佐（班長）

1990年宮城県総合衛生学院公衆衛生看護学科卒業後、宮城県に入庁。保健師として仙南保健所、塩釜保健所、大崎保健所、保健福祉部健康推進課で成人保健や精神保健分野等の保健福祉行政に従事。2016年4月より現職。がんになっても自分らしく生き抜くことの出来る環境を行政の立場として何が出来るのか模索中。

佐藤 隆裕 さとう たかひろ

医療法人社団爽秋会理事、岡部医院院長

1998年に東北大学医学部を卒業後、同付属病院の耳鼻咽喉科の医師として働きはじめる。気仙沼公立病院や石巻赤十字病院で診療を重ね、2005年より岡部医院で在宅医療を開始。当時院長だった岡部健医師のもと、がん患者が病院から自宅に戻る地域医療の体制づくりに尽力してきた。2012年より現職。「自宅で家族と過ごしたい」、「お気に入りの自宅に帰りたい」という多くの人の想いに向き合い続けている。緩和医療学会暫定指導医、プライマリケア認定医。

伊藤 千津子 いとう ちづこ

がん患者サロン「四つ葉の会」

大手化粧品メーカーのショップオーナーとして多忙を極めた56歳の時、乳がんと診断される。がんの状態は最も進行したステージ4だった。骨への転移もあり手術ができないと告げられ、放射線と抗がん剤（化学療法）による治療を開始。吐き気などの副作用に加え、今後への強い不安から眠れぬ日々が続いた。同じ病室の患者や、同じがん経験者の看護師らの励ましを得て、生きていく意欲を取り戻す。治療は今年で8年目を迎え、患者支援活動と仕事を両立する日々。

町永 俊雄 まちなが としお

コーディネーター

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在は、フリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

参加申し込みについて

入場は無料ですが、事前の申し込みが必要です。

参加ご希望の方は、はがき(単信)、FAX、メール(ホームページの申し込みフォームから)のいずれかに

1. 名前(必ず個人名を記入) 2. 郵便番号・住所 3. 電話番号 4. 参加人数

5. ご一緒に参加される方の名前(複数名の参加を希望される場合) を書いて、お申し込みください。

お申し込み先

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル

NHK厚生文化事業団「フォーラム がんと生きる 仙台」係

FAX 03-3476-5956 ※FAX番号はお間違いのないようお願いいたします。

ホームページ <https://www.npwo.or.jp/>

定員になり次第
締め切ります

※当日の入場は『入場整理券(1枚で1人入場可)』が必要です。2018年1月中旬頃より順次、希望人数分を封書でお送りいたします。

※郵便番号、住所は正確にご記入ください。誤り及び記入漏れがある場合、入場整理券が届かない場合があるので、ご注意ください。

※個人情報は適切に管理し、本フォーラムの連絡のみに使用いたします。

下記欄にご記入の上、そのままFAXにてお送りいただけます。

| | | | |
|-----------------------|--------------------------------------|------|-------------------|
| フォーラムがん と生きる 仙台 | ふりがな | 参加人数 | < ご一緒に参加される方の名前 > |
| | 名前 ※必ず個人名をご記入ください。 | 人 | |
| | 住所 〒 | | |
| | 電話番号 ※勤務先住所の場合は、勤務先名も忘れずにご記入ください。 | | |

お問い合わせ **NHK厚生文化事業団 TEL 03-5728-6633** (平日 午前10時~午後6時)

※2017年12月29日(金)から2018年1月3日(水)まで年末年始休業とさせていただきます。